



マニーパッキャオ（Manny Paquiao）を知らずして、フィリピンは語れない。

天才ボクサーにして、フィリピンの英雄であるマニーパッキャオがウェルター級タイトルを勝利、防衛した瞬間である。

ここは、マニラ郊外にある片田舎のレストラン。

この日、米国ラスベガスで行われたタイトルマッチの様子は、衛星を介し世界中に実況中継された。

ただし、視聴は有料であり、映画館、ホテル、レストラン、等々フィリピン国内のいたる場所が、その会場となる。

このレストランも、巨大スクリーンをステージ上に設置し、周りには覗き見防止のカーテンを張りめぐらせた。ブランチ込みの入場料は 250 ペソ（約 500 円）也。

前座試合（とはいえ、いずれも世界タイトルマッチ）が終わり、いよいよメインイベントとなる。

パッキャオの登場とリングアナウンサーの紹介、フィリピン国歌斉唱、そのたびに会場一杯、大きな歓声と拍手、異様な興奮に包まれ、試合開始のゴングとなった。

試合の攻防も最終 12 ラウンドまでもつれこみ判定に。

そして、パッキャオの勝利がアナウンスされた。

勝利の余韻に浸っている観客に 「Congratulation !! 」と手を差し伸べる。

「Thank you」、「Thank you」と握り返してくる、たくさんの手と手に何故か胸が熱くなる。

フィリピン人の自信と誇りの象徴 マニーパッキャオ

勝ってくれて本当によかった、